

**ファンタジースタンプ “液体リリーサーを使用する場合”****【カラー散布】**

リリーサーの色よりも薄い色のカラーハーディナーを選ぶこと。カラーハーディナーは必ず二回散布し、木ごて、または金ごてでその都度押さえる。(この作業にはブルフロート、またはウォーキングトロウエルが便利)。初回散布は、打ち込んだばかりのコンクリート 1 m<sup>2</sup>あたりカラーハーディナー 1kg を均一に散布する。使用料は表面の浮き水の量や運んだ色の量によって異なる。色粉がコンクリートの水分を十分に吸い取り次第、全体を木ごてか金ごてで押さえる。

二回目も 1 m<sup>2</sup>あたりカラーハーディナー 1kg を使い、今回はコンクリートにプリントできる状態になるまで待つ。求められている仕上げのタイプによって金ゴテまたは木ゴテ仕上げる。浮き水が多い場合には三回塗りが必要になることもある。

コンクリートの表面を十分に着色するのに要するカラーハーディナーの量は、色やコンクリートの状態によって異なるが、20kg 入りの 1 袋で約 10 m<sup>2</sup>。

**【過剰水分と着色】**

浮き水が多すぎると、品質の劣化を招く原因となる。浮き水が多すぎる場合は地元のコンクリート供給業者のアドバイスを受けること。最初のコテ均しに木ゴテを使うと浮き水を減らせる。コンクリートの強度は 210 以上がベスト(冬季は温度補正をする事)でスランプは冬場 12~15、夏場 15~18 以下で施行すること。施行面積や冬場は A E 減水剤を使用すると施行しやすくなる。

一回目の層を厚くすると表面が硬くなり、時間の経過と共に蜂の巣状態の亀裂を生じる原因になることがある。又、時が経つにつれてカラーハーディナー層の中央部に弱い部分を作る原因となり、その結果、カラーハーディナーが傷み、シーラーが浮き上がってしまう。金ごて仕上げはプリント前のコンクリート調整によく使われる方法である。金ごて仕上げのコンクリートは、磨き仕上げのように見えて美しいが、滑りやすくなるという欠点もある。実用的かつ安全な仕上げには、マグネシウムまたは木ごての使用を考慮してみる。

**【液体リリーサーの散布】**

使用前に、材料安全データ、テクニカルデータシートおよび安全取り扱い指示書を読むこと。モールドの材質によっては液体リリーサーの影響を受けるものもあるので、使用前に確認すること。40 を超える場所では使用しないこと。使用前及び使用中も中身を強く振る。色は沈殿するので、それを防ぐために振る。振ったらすぐに中身を適当な金属製のスプレー容器に注ぐ。細孔で拭きつけられるよう、ポンプの圧力を保つこと。コンクリートがスタンプを押せる状態になったら、モールドが汚れていないことを確かめた上で、モールドに液体リリーサーを均一にスプレーする。

\*吹付作業中は常にスプレーポンプを軽くゆすくようにする。



スタンプする表面の約 10 m<sup>2</sup>に液体リリーサーを均一に吹き付け、次に全体へと広げていく。液体リリーサーの使用量が多い程、ツートーン効果がよくでる。スタンプした後でも、液体リリーサーを更に吹き付けてツートーンの効果进行调整できる。

急斜面にはクリアの液体リリーサーを使ってスタンプするとよい。スタンプ終了後、液体リリーサーカラーを吹き付けて、ツートーン効果をだす。カラーリリースが流れないように注意すること。

**【プリンティング・スタンプ】** コンクリートが体重を支える程度に固まったらプリント作業に移るが、タンパーを使うのが望ましい。壁や塀ぎわにプリントする場合は、その場所に合うように簡単に折り曲げるフロッピーモールドを使うと手作業の部分を減らせる。モールドに色がついてしまったら、ブラシで落とすこと。色がついた場所にはリリーサーをやや厚めに散布し、改めてプリントする。プリント作業中にコンクリートの水分が多くなり過ぎたら、作業を中断する。モールドを置いた部分の下から水分が出てくるので、モールドを一箇所に長く置かず、コンクリートから移動すること。置いたままにしておくと、出来あがりに悪影響を及ぼし、シール後にその部分が目立つ。寒い季節には幅広のタンパーを使うと、モールドの”たるみ”を防ぐ事ができる。これを使うと平らできれいな仕上がりになり、モールドがコンクリートにくっつきにくくなる。

**【伸縮目地】** プリント作業中、テーパーにしてあるエキスパンション・ジョイントバーを使って伸縮目地を切り込める。このジョイントバーには三種類のサイズがある。目地は翌日ダイヤモンドソーで切り込むこともできる。

**【雨天の場合】** 基本的中止する。作業中の雨でビニールシートをかける場合は、プリント作業の個所だけでなく、全体に覆うこと。スタンプしたコンクリートに直接ビニールシートをかけると、リリーサーが汗をかいてコンクリートに付着する色粉の量が増え、結果的に仕上がりの色が変わってしまう。部分的にカバーをかけた場合は、その部分だけを念入りに洗浄するが、液体リリーサーカラーを細かく吹き付けてカラー調整しなければならない。

**【再着色】** 施工後のリリーサーによる再着色は、全体の仕上げを見てリリーサーの色が着いていない所を中心に散布し、デッキブラシなどでこすり付け、ハーデナーによく浸透させることが重要です。凸凹の濃淡をつけその後に凸部のリリーサーをよく洗浄してください。リリーサーが乾き、粉が残った状態の上にシーラーを塗布するとシーラーが剥がれることがあります。

**【シーリング】** 施工 2 ~ 3 日後コンクリートの乾燥をまってシーリングを行う。



**IT Exterior Products Pty Ltd**

Japan Branch : 1-7-9 Tatara, Higasiku, Fukuoka

伊藤建材株式会社

シーリング前に、表面にグリース、オイル、汚れ等が付いていないか十分にチェックする。必要であれば、コンクリートクリーナー1を水20で薄めたもので洗い落とす。洗い終えたら清水ですすぐ。余分の液体リリーサーカラーは、酸1を水50の割合で希釈した弱酸性洗浄液で落とす。十分に乾かす。乾いているがどうかはっきりしない場合は、パッチテストをして湿り具合を確かめる。ごく一部をビニールで覆い、縁をテープで留めて約一時間放置して乾かす。ビニールをはずして試みて両面とも湿っていなければ、コンクリートは十分に乾いてシーリングを行える。

まず表面に下塗りシーラーを塗布し、乾いたらその上に上塗りシーラーを塗る。柔らかいはけか、ウールのローラー、またはエアレススプレーガンを使うとよい。湿ったコンクリートや冷たいコンクリートをシーリングしないこと。暑い地域では、一日中で最も涼しい時間帯を選んでシーリングすること。高温では上塗りシーラーが泡立つことがあるが、その場合は上塗りシーラーを最大15%までアクリルシンナーで希釈するとよい。

**【ノンスリップ添加剤の散布】** 一袋280g入りの滑り止めの粉末をシーラーに添加して使う。20リットル入りのシーラーに1～2袋加えて混ぜる。粉が透明になり、シーラーの中に浮いた状態になる。最後に塗布するシーラーだけに粉を混ぜるのが最も効果的。この製品はスリップを軽く押さえる程度でよい場合に限り使用すること。

**【ノンスリップ散布材の散布】** 10リッター入りの缶があり、色はクリアに仕上がります。ノンスリップ添加剤より粒子が大きい為滑り止めの効果は大です。下塗りシーラーを5～10㎡にシーリングした後で、手でノンスリップを散布するが、その際にノンスリップが付着しやすいように下塗りシーラーが未乾燥であるかどうかを確かめること。これを繰り返して散布する。

表面が乾き、滑り止め用ノンスリップがうまく散布されていたら、ノンスリップがしっかり付着するように全体に上塗りシーラーを再度塗布する。

**【保守管理】** 外見と性能を良い状態に維持するには、定期的にシーリングと滑り止めを行うのが望ましい。これは場所と交通量によって異なる。

**【使用上の注意】** 使用者は本製品の使用前に、関連するテクニカルデータと材料安全データシートを必ず読むこと。

周辺に色がつかないように留意する。

換気のよい場所で使用すること。

**【ファンタジースタンプ使用に際してメーカーがお勧めする製品及びツール】**



**IT Exterior Products Pty Ltd**

Japan Branch : 1-7-9 Tatara, Higasiku, Fukuoka

伊藤建材株式会社

カラーハーディナー  
リリーサー 液体・粉体  
モールド5個、フロッピー1個、ハンドマット1個、タンパー  
エキスパンション・ジョイントバー（目地切バー） 2m  
のみ（小）  
のみ（大）  
液体リリーサー用ポンプ  
スクリード 1.2m、スクリード 2.4m、スクリード 3m  
ブルフロート（コテ）900mm  
延長ハンドル  
ウォーキング・トロウエル（コテ）  
ポイントッド・トロウエル（目地ゴテ）  
ハンド・マグネシウム・フロート  
エッジャー 200×140mm/12mm  
縁取り用工具 150/10mm/Gr  
養生マーカー 500mm  
ガムテープ 50mm  
下塗りシーラー  
上塗りシーラー  
シーラー溶剤（CP901）  
ノンスリップクリア 10リッター散布用  
袋入りノンスリップ添加用 280g  
ローラー（柄つき）  
コンクリートクリーナー

